

■編集後記■

●コミ福学会誌『まなびあい』の編集長という大役を事情を何もわからないまま、この春から担当させていただきました。僕自身、今まで、経験から学ぶことで無駄なことはなく、それは自分の生きる力になると思っていました。今回、編集長として投稿してくださった在学生・教員はもとより、卒業生・修士生の論文・研究ノート、実践報告、等々を読みながら、自分の経験からの学びを言葉にして伝え合うという姿勢に感動するものがありました。そして、最後に、この学会誌は、「書（理論的な学び）を持って、街（現場実践）に出る」、そして「書と街の交流を経験や実践に生かす」というさらなる課題に向かって読んだ者がそれぞれ歩み出す「叡智のプラット・ホーム」なのだと思います。第7号の編集委員、運営員、投稿者の方々には心より感謝致します。

（編集長 結城俊哉）

●ページをめくると久しぶりの同級生や後輩達。原点と積み重ね、行間にゆらぎと自信が滲み出ている、さて自分が来た道はどうか。今に本当に丁寧につなげているのだろうか、ふと立ち止まる時間となりました。表紙の題字は故尾崎新先生が書いたものだそうです。他者と向き合い自分とも向き合う、そんな『まなびあい』本誌であればと思います。

（副編集長 岡田哲郎）

●『まなびあい』も7号目となりました。寄稿頂いた論文や報告を読ませてもらうと、もっと頑張らねばとモチベーションが上がりますね。誌面を通して、新しい先生や後輩が増え、コミ福の広がりを感じつつ、今それぞれの現場で頑張るコミ福仲間と、もっともっと経験や知識や葛藤を伝え合い、まなび合い、さらに成長し合える場にするために、『まなびあい』をどう活かしていけるのか、今後も関わっていきたいと思っています。

（編集委員 大川真央）

●これまで教員からの寄稿が多かった『まなびあい』も、ここ2～3年で卒業生からの投稿が半数程に増えました。卒業して10年前後となると、その業種を支える中堅となり、自ら勉強会や研修に参加し人脈を広げられるようになります。しかし、同世代や同窓の声や近況は、そうして得た人脈とは異なり、業種を問わず懐かしさとともに心強さを感じます。これからも幅広く活躍する卒業生の声を集めていけたらと思います。

（編集委員 片山友子）

●まなびあい活動の継続とともに、学会誌『まなびあい』は年を追うごとに充実していている気がします。今号の編集に少し関わりそのことをより一層感じました。毎年増えるコミュニティ学部卒業生、そして変わり続ける現役生と教員にあって、三者によるまなびあいが今後も続いていくことを期待しています。

（編集委員 大賀政昭）

●ご執筆くださった皆様を始め、的確なアドバイスをくださった編集長の結城先生、他大勢の皆様のご支援のお蔭で、今号が発刊されましたことを心より感謝申し上げます。多くの方にご投稿いただき、今号も充実した内容となりました。今後さらに良い方向に進むことを期待しております。

（事務局 小林裕子）

立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第7号

2014年11月7日発行

発行者 浅井 春夫

編集者 結城 俊哉

発行所 立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

TEL. 048-471-7308

印刷所 東銀座印刷出版株式会社